

Novell 区切りテキスト用の Identity Manager ドライバ

1.1

www.novell.com

実装ガイド

2005 年 11 月 23 日

N

Novell®

保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書に起因する結果に関して、いかなる表示も行いません。また、本書の商品性、および特定用途への適合性について、いかなる黙示の保証も行いません。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの使用に起因する結果に関して、いかなる表示も行いません。また、商品性、および特定目的への適合性について、いかなる黙示の保証も行いません。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、取引対象製品の輸出、再輸出または輸入に関し、国内外の輸出管理規定に従うこと、および必要な許可、または分類に従うものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。本ソフトウェアの輸出については、www.novell.co.jp/info/exports/expmtx.html または www.novell.com/ja-jp/company/exports/ もあわせてご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに對し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2004-2005 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複製、写真複写、検索システムへの登録、転載することは、その形態を問わず禁止します。

本書に記載された製品で使用されている技術に関連する知的所有権は、弊社に帰属します。これらの知的所有権は、<http://www.novell.com/company/legal/patents/> に記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル：本製品とその他の Novell 製品のオンラインマニュアルにアクセスする場合や、アップデート版を入手する場合は、www.novell.com/ja-jp/documentation をご覧ください。

Novell の商標

ConsoleOne は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国々における登録商標です。

DirXML は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国々における登録商標です。

eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NDS は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国々における登録商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国々における登録商標です。

Novell は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国々における登録商標です。

Novell Client は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell Directory Services は、米国 Novell, Inc. の米国およびその他の国々における登録商標です。

SUSE は、米国 Novell, Inc. の事業部である SUSE LINUX AG の登録商標です。

ZENworks は、米国 Novell, Inc. の商標です。

第三者の商標

第三者の商標は、それぞれの所有者に属します。

目次

このガイドについて	3
1 区切りテキスト用の Identity Manager ドライバの概要	5
1.1 概要	5
1.2 用語の変更	5
1.3 ドライバに対する 4 つの Java インタフェース	5
1.4 ドライバハートビート	6
1.5 デフォルトのドライバ環境設定	7
1.5.1 データフロー	7
1.5.2 サポートされているファイルタイプ	9
2 区切りテキスト用の Identity Manager ドライバのインストール	11
2.1 ドライバをインストールする場所	11
2.2 前提条件	11
2.3 Identity Manager 3 へのアップグレード	11
2.4 ドライバのインストール	11
2.4.1 Windows へのインストール	12
2.4.2 NetWare へのインストール	13
2.4.3 Linux または Solaris へのインストール	16
2.5 ドライバのセットアップ	19
2.5.1 ドライバの設定	20
2.5.2 データの場所の準備	22
2.5.3 ドライバの起動	22
2.5.4 データの移行と再同期化	23
2.5.5 ドライバを有効にする	24
3 区切りテキスト用のドライバのアップグレード	25
4 区切りテキスト用のドライバのカスタマイズ	27
4.1 ドライバパラメータの設定	27
4.1.1 ドライバ設定	29
4.1.2 購読者設定	31
4.1.3 発行者設定	32
4.1.4 一方向の同期の設定	34
4.1.5 XDS XML ファイルの設定	36
4.2 データ同期の設定	36
4.3 Java インタフェースを使用したファイル処理のカスタマイズ	37
4.3.1 新しい Java クラスの作成	37
4.3.2 Java .jar ファイルの作成	37
4.3.3 新しいクラスを使用するためのドライバの設定	38

このガイドについて

このガイドでは、区切りテキスト用の Identity Manager ドライバのインストール方法および設定方法について説明します。

- ◆ 5 ページの第 1 章「区切りテキスト用の Identity Manager ドライバの概要」
- ◆ 11 ページの第 2 章「区切りテキスト用の Identity Manager ドライバのインストール」
- ◆ 25 ページの第 3 章「区切りテキスト用のドライバのアップグレード」
- ◆ 27 ページの第 4 章「区切りテキスト用のドライバのカスタマイズ」

対象読者

このガイドは、区切りテキスト用の Identity Manager ドライバを使用する Novell® eDirectory および Identity Manager の管理者を対象にしています。

ご意見やご要望

このマニュアルおよび本製品に含まれるその他のマニュアルに関するご意見やご要望をお聞かせください。オンラインヘルプの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または www.novell.com/documentation/feedback.html にアクセスして、ご意見をお寄せください。

最新のマニュアル

このマニュアルの最新バージョンについては、[Novel 1 マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/ja-jp/documentation\)](http://www.novell.com/ja-jp/documentation) の Identity Manager ドライバのセクションで区切りテキスト用の Identity Manager ドライバを参照してください。

その他のマニュアル

Identity Manager および Identity Manager の他のドライバについては、[Novel 1 マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/ja-jp/documentation\)](http://www.novell.com/ja-jp/documentation) を参照してください。

表記規則

本マニュアルでは、手順に含まれる複数の操作および相互参照パス内の項目を分けるために、大なり記号 (>) を使用しています。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は第三者の商標を示します。

区切りテキスト用の Identity Manager ドライバの概要

- ◆ 5 ページの「概要」
- ◆ 5 ページの「ドライバに対する 4 つの Java インタフェース」
- ◆ 6 ページの「ドライバハートビート」
- ◆ 7 ページの「デフォルトのドライバ環境設定」

Identity Manager の新機能については、『*Identity Manager 3.0 インストールガイド*』の「*Identity Manager 3 の新機能*」を参照してください。

1.1 概要

区切りテキスト用の Identity Manager ドライバは、アイデンティティボールドと、XML ファイルまたはカンマ区切りの値を含む区切りテキストファイルとの間でユーザデータの同期を取ります。

このドライバが他の Identity Manager ドライバとは異なる点は、特定のアプリケーションと直接入出力を行わない点です。テキストファイルがそのアプリケーションの代わりになります。

独自のスタイルシートを使用すると、予想定型パターンを含むテキストベースのファイルとドライバとを実質的に連動させることができます。

1.2 用語の変更

次の用語が、旧リリースから変わりました。

表 1-1 用語の変更

旧用語	新用語
DirXML®	Identity Manager
DirXML サーバ	メタディレクトリサーバ
DirXML エンジン	メタディレクトリエンジン
eDirectory™	アイデンティティボールド (eDirectory 属性またはクラスを参照する場合は除く)

1.3 ドライバに対する 4 つの Java インタフェース

区切りテキスト用のドライバには、次の 4 つの Java* インタフェースが含まれています。

- ◆ InputSorter
- ◆ InputSource

- ◆ PreProcessor
- ◆ PostProcessor

これらのインタフェースにより、オプションで拡張機能を追加できます。拡張機能を使用しない場合も、以前と同様、ドライバは機能します。ただし、ドライバの動作を直接変更したくても、スタイルシートまたは DirXML スクリプトからこの変更を行うことができなかった場合は、区切りテキスト用のドライバの機能を拡張すると便利です。

管理者が作成する Java クラスを使用すれば、そのインタフェースを使用して、発行と購読のプロセスを次のようにカスタマイズできます。

表 1-2 発行と購読のプロセスのカスタマイズ

プロセス	インタフェース	説明
発行	InputSorter	複数の入力ファイルの処理順序を定義します。 ドライバがインストールされるシステムによって、デフォルトの処理順序が決まります。たとえば、NT システムのファイルは、アルファベット順に処理されます。InputSorter を使用して、必要な処理順序を強制することができます。
発行	InputSource	デフォルトの場所以外にあるデータを、ドライバが処理できるように提供します。 たとえば、FTP サーバをチェックして入力ファイルの有無を確認し、入力ファイルがあればローカルファイルシステムに転送して処理する、ということが考えられます。
発行	PreProcessor	ドライバ処理用の入力ファイルを準備するために必要なデータ操作をドライバに直接結び付けます。 このインタフェースが使用可能になる以前、前処理はドライバとは無関係でした。監視アプリケーションを作成して別のディレクトリを監視させ、入力ファイルがあれば何らかの方法で前処理をした後、ドライバの入力ディレクトリにコピーすることが必要でした。PreProcessor を実装するクラスを作成すると、この種の前処理をより直接的に行うことができます。
購読	PostProcessor	アイデンティティポールド出力を使用するアプリケーションで必要なデータ操作をドライバに直接結び付けます。

ドライバに対するこの機能拡張には、Java プログラミングが必要です。詳細については、[37 ページの「Java インタフェースを使用したファイル処理のカスタマイズ」](#)を参照してください。

1.4 ドライバハートビート

メタディレクトリエンジンは、区切りテキスト用のドライバからのハートビートドキュメントを受け付けます。そのドキュメントを送信するよう、ドライバを設定することができます。

1.5 デフォルトのドライバ環境設定

この節では、次の各項目について説明します。

- ◆ 7ページの「データフロー」
- ◆ 9ページの「サポートされているファイルタイプ」

Identity Manager の基礎については、『*Novell Identity Manager 3.0 管理ガイド*』を参照してください。

1.5.1 データフロー

区切りテキスト用のドライバは、発行者チャンネル、購読者チャンネル、およびポリシーを使用してデータフローを制御します。

発行者チャンネルと購読者チャンネル

区切りテキスト用のドライバは、発行者チャンネルと購読者チャンネルをサポートします。

- ◆ 発行者チャンネルでは、ローカルファイルシステムの入力テキストファイルからの情報が読み込まれ、その情報がメタディレクトリエンジンを介してアイデンティティポータルに送信されます。

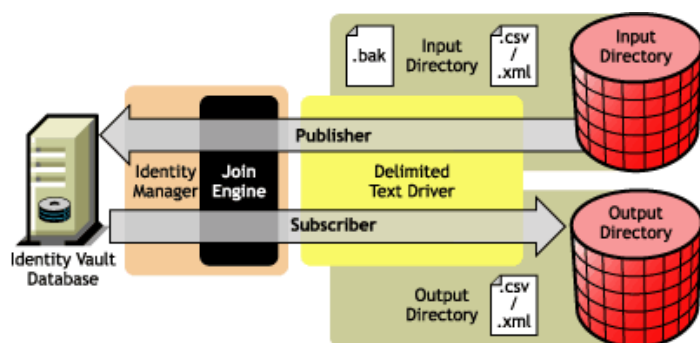
発行者チャンネルのデフォルトの機能は、次のとおりです。

1. 10 秒おきに入力ディレクトリをチェックします。
2. .csv 拡張子のファイル进行处理します。
3. 処理したファイルの拡張子 .csv を .bak に変更します。
4. ドライバを停止するまでこのプロセスを循環させます。

- ◆ 購読者チャンネルでは、アイデンティティポータルプロジェクトへの追加や変更が監視され、ローカルファイルシステム上に、これらの変更を反映する出力ファイルが作成されます。

購読者チャンネルのデフォルトでは、200 トランザクションがログに記録されるか、または 30 秒経過するまで出力ファイルが開いたままになります。この一方のしきい値に達すると、出力ファイルが *number.csv* というファイル名で保存され、新しい出力ファイルが開かれます。

図 1-1 データフロー



このドライバに付属するサンプル環境設定には、購読者チャンネルと発行者チャンネルが含まれています。ただし、多くの環境設定では、一方向のデータフローしか必要ありません。

そのような環境設定では、発行者チャンネルまたは購読者チャンネルのうち片方のチャンネルだけが使用されます。他のチャンネルは無効にされます。

ポリシー

ポリシーは、ドライバとアイデンティティボールドとの間のデータ同期を制御します。次の表は、区切りテキスト用のドライバに付属する設定済みのポリシーセットに関する情報です。これらのポリシーをカスタマイズするには、[27 ページの「区切りテキスト用のドライバのカスタマイズ」](#)で説明しているように、Novell® iManager を使用します。

表 1-3 設定済みのポリシー

ポリシー	説明
スキーママップ	<p>ドライバオブジェクトで設定されます。</p> <p>次のようにアプリケーション属性にアイデンティティボールドユーザプロパティをマップします。</p> <ul style="list-style-type: none">名字 > LastName名前 > FirstName役職 > Titleインターネット電子メールアドレス > Email電話番号 > WorkPhoneFax 番号 > Fax携帯電話 > WirelessPhone説明 > Description <p>アプリケーション属性は、ファイル内の一連の値に対応するか、または存在する場合は、名称未設定の XDS< フィールド > 要素に関連付けられた属性に対応します。</p>
入力変換	<p>ドライバオブジェクトで設定されます。</p> <p>入力ドキュメントが XML ドキュメントの場合、変換は行われません。ドキュメントが区切りテキストファイルの場合、各レコードは、スキーママップで定義された属性を持つユーザオブジェクトの XDS add 要素に変換されます。</p> <p>ユーザ CN は、名前と名字の値を連結して作成されます。</p> <p>関連付けは、ユーザの電子メール属性の値に基づいて定義されます。</p>
出力変換	<p>ドライバオブジェクトで設定されます。</p> <p>出力ファイルの区切り記号文字としてカンマを使用すること、およびファイル形式が CSV (Comma Separated Values) であることを指定します。</p>
作成	<p>発行者チャンネルで設定されます。</p> <p>アイデンティティボールドにユーザを作成するために、名前とインターネット電子メールアドレスの属性を定義する必要があることを指定します。</p>

ポリシー	説明
一致	<p>発行者チャンネルで設定されます。</p> <p>アイデンティティボールドと入力ファイルでインターネット電子メールアドレスの値が同じ場合、アイデンティティボールド内のユーザが入力ファイルで指定したユーザと同じである、ということ指定します。</p> <p>一致する場合は、変更された属性だけがアイデンティティボールドで更新されます。</p>
配置	<p>発行者チャンネルで設定されます。</p> <p>新規ユーザを Users\Active コンテナに配置し、入力変換ルールに基づいて作成された CN で名前を付けることを指定します。</p> <p>ツリーのルートに Users\Active コンテナを作成してから、ドライバを起動する必要があります。</p>
イベント変換	<p>購読者チャンネルで設定されます。</p> <p>アイデンティティボールドにより変更イベントまたは同期イベントがレポートされると、それらのイベントは、完全な出力レコードを作成するために使用できるインスタンス要素に変更されます。</p>

1.5.2 サポートされているファイルタイプ

サンプル環境設定では、現在次の2種類のファイルをサポートしています。

- ◆ **CSV (Comma-Separated Values) ファイル**
- ◆ **XDS 形式の XML ファイル**

CSV (Comma-Separated Values) ファイル

CSV (Comma-Separated Values) ファイルは、データがフィールドとレコードに分割されているテキストファイルです。フィールドはカンマで区切られ、レコードは改行で区切られます。

特定のフィールドの値内でカンマまたは改行を必要とする場合は、フィールド全体の値を引用符で囲む必要があります。

CSV ファイルの各フィールドは、その位置に基づいて解釈されるため、CSV ファイル内の各レコードでフィールドの数が同じになっている必要があります。フィールド値は空白のままにすることもできますが、各レコードには同数の区切り文字が必要です。

XDS 形式の XML ファイル

XDS 形式は、XML 形式の一種として Novell が定義したサブセットです。これは、アイデンティティボールドからのデータの初期形式です。デフォルトのルールを変更してスタイルシートを変更すれば、区切りテキストドライバをあらゆる XML 形式と連動するように設定できます。

XDS 形式の詳細については、「[NDS DTD Commands and Events \(http://developer.novell.com/ndk/doc/dirxml/index.html?dirxmlbk/data/a5323rs.html\)](http://developer.novell.com/ndk/doc/dirxml/index.html?dirxmlbk/data/a5323rs.html)」を参照してください。

XDS 形式の XML ファイルを使用するためにドライバを設定する方法の詳細については、[36 ページの「XDS XML ファイルの設定」](#)を参照してください。

区切りテキスト用の Identity Manager ドライバのインストール

- ◆ 11 ページの「ドライバをインストールする場所」
- ◆ 11 ページの「前提条件」
- ◆ 11 ページの「ドライバのインストール」
- ◆ 19 ページの「ドライバのセットアップ」

2.1 ドライバをインストールする場所

区切りテキスト用の Identity Manager ドライバをローカルにまたはリモートでインストールします。

ローカルにインストールするには、アイデンティティボールドとメタディレクトリエンジンがインストールされているコンピュータにドライバをインストールします。

プラットフォームまたはポリシーの制約のためにローカルの環境設定が困難または不可能な場合は、ターゲットアプリケーションをホストしているコンピュータにドライバをインストールします。このインストールは、リモート環境設定と呼ばれます。

このドライバでは、その機能を新しい Java インタフェースで拡張しない限り、ドライバが実行しているコンピュータのローカルファイルシステムから入力ファイルを読み込むことしかできません。

2.2 前提条件

- ❑ Identity Manager プラグインを追加した Novell® iManager の任意のバージョン (またはプラグインを追加した ConsoleOne®)
- ❑ Novell Identity Manager 3

2.3 Identity Manager 3 へのアップグレード

Identity Manager のインストール中に、メタディレクトリエンジンをインストールすると同時に、区切りテキスト用のドライバを (他の Identity Manager ドライバとともに) インストールできます。『[Identity Manager 3.0 インストールガイド](#)』を参照してください。DirXML 1.1a または Identity Manager 2 から Identity Manager 3 にアップグレードできます。

2.4 ドライバのインストール

この節では、メタディレクトリエンジンをインストールした後で、ドライバを別途インストールする方法について説明します。

2.4.1 Windows へのインストール

- 1 Identity Manager 3 のダウンロードイメージまたは CD からインストールプログラム (\nt\install.exe) を実行します。

ダウンロードイメージは、ノベル用ダウンロード (<http://download.novell.com/index.jsp>) から入手できます。

- 2 [ようこそ] ダイアログボックスで、[次へ] をクリックして、使用許諾契約に同意します。
- 3 最初の [Identity Manager の概要] ダイアログボックスで、情報を確認して、[次へ] をクリックします。

このダイアログボックスには、次の情報が表示されます。

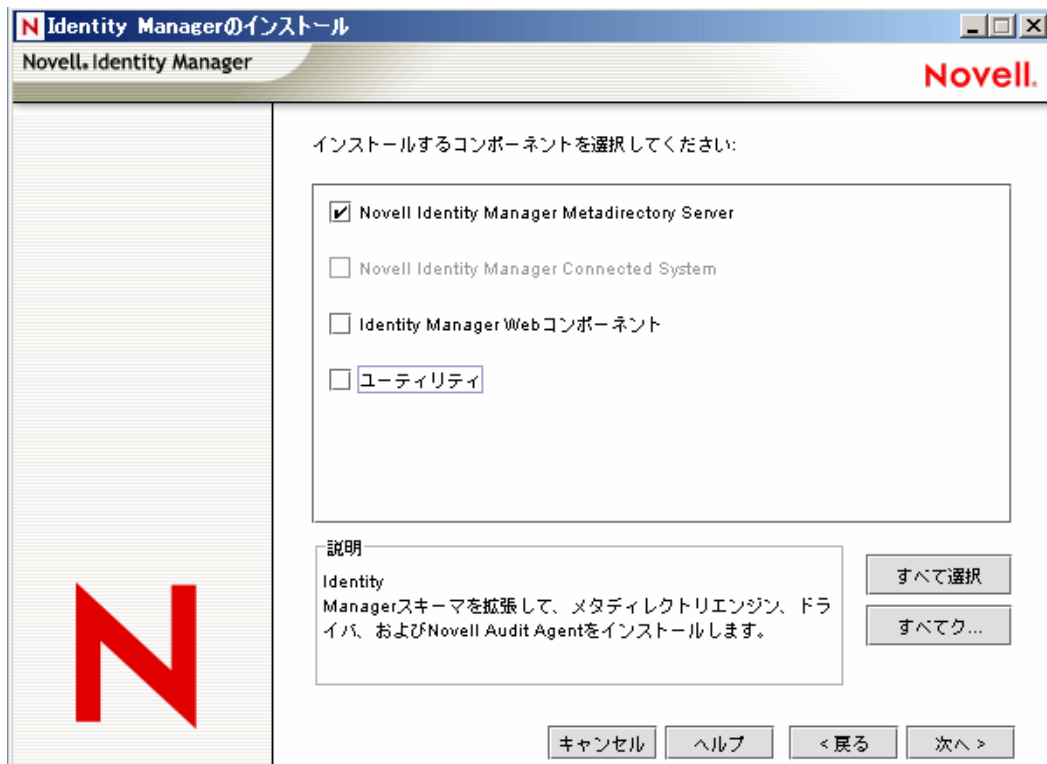
- ◆ メタディレクトリサーバ
- ◆ 接続先サーバシステム

- 4 2 番目の [Identity Manager の概要] ダイアログボックスで、情報を確認して、[次へ] をクリックします。

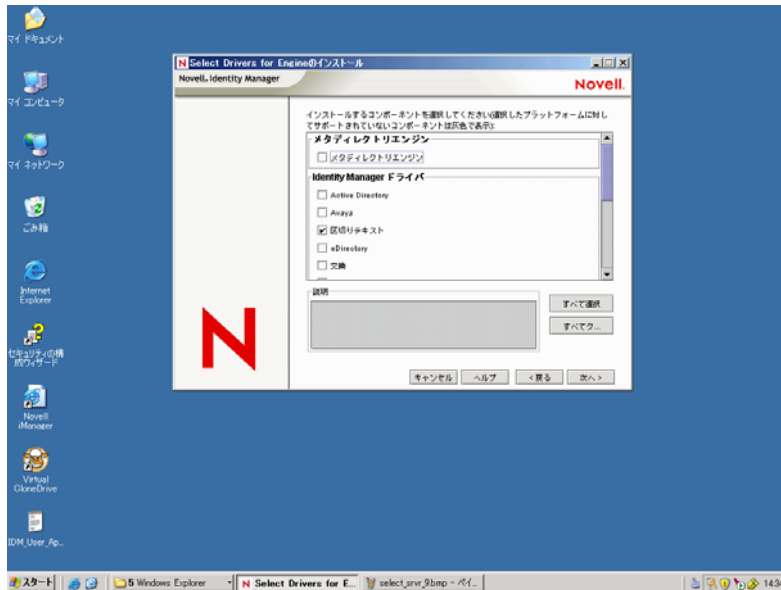
このダイアログボックスには、次の情報が表示されます。

- ◆ Web ベースの管理サーバ
- ◆ Identity Manager ユーティリティ

- 5 [メタディレクトリサーバ] だけを選択して、[次へ] をクリックします。



- 6 エンジンインストールのドライバを選択するダイアログボックスで、[区切りテキスト] だけを選択して、[次へ] をクリックします。



- 7 [Identity Manager アップグレードの警告] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。
- 8 [概要] ダイアログボックスで、選択したオプションを確認して、[終了] をクリックします。
- 9 [インストールが完了しました] ダイアログボックスで、[閉じる] をクリックします。

インストール後、19 ページの「ドライバのセットアップ」にある説明に従ってドライバを設定します。

2.4.2 NetWare へのインストール

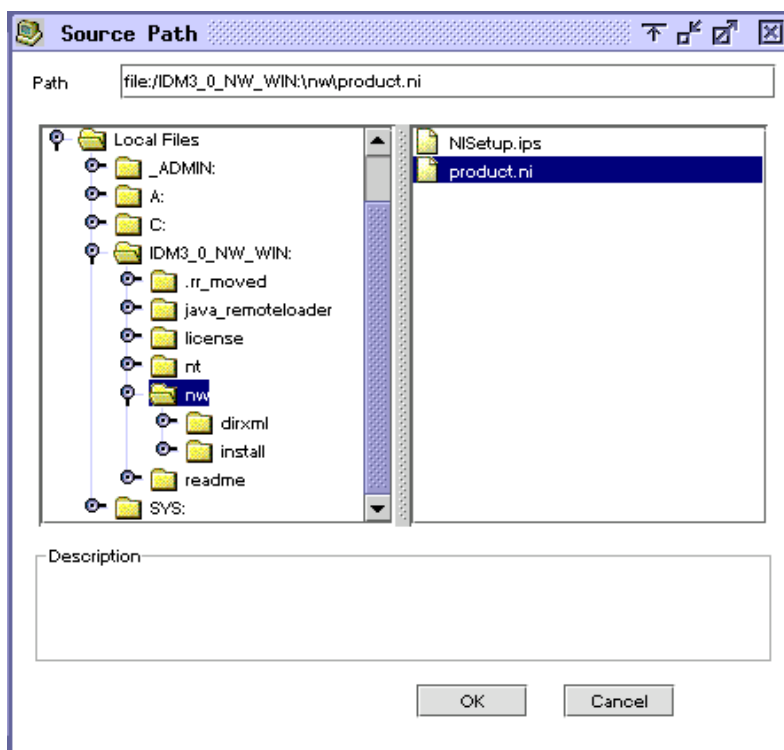
- 1 NetWare® サーバで、Identity Manager CD をドライブに挿入して、CD をボリュームとしてマウントします。

CD をお持ちでない場合は、Identity_Manager_3_NW_Win.iso をダウンロードして CD を作成します。ダウンロードイメージは、ノベル用ダウンロード (<http://download.novell.com/index.jsp>) から入手できます。

CD をマウントするには、「m cdrom」と入力します。

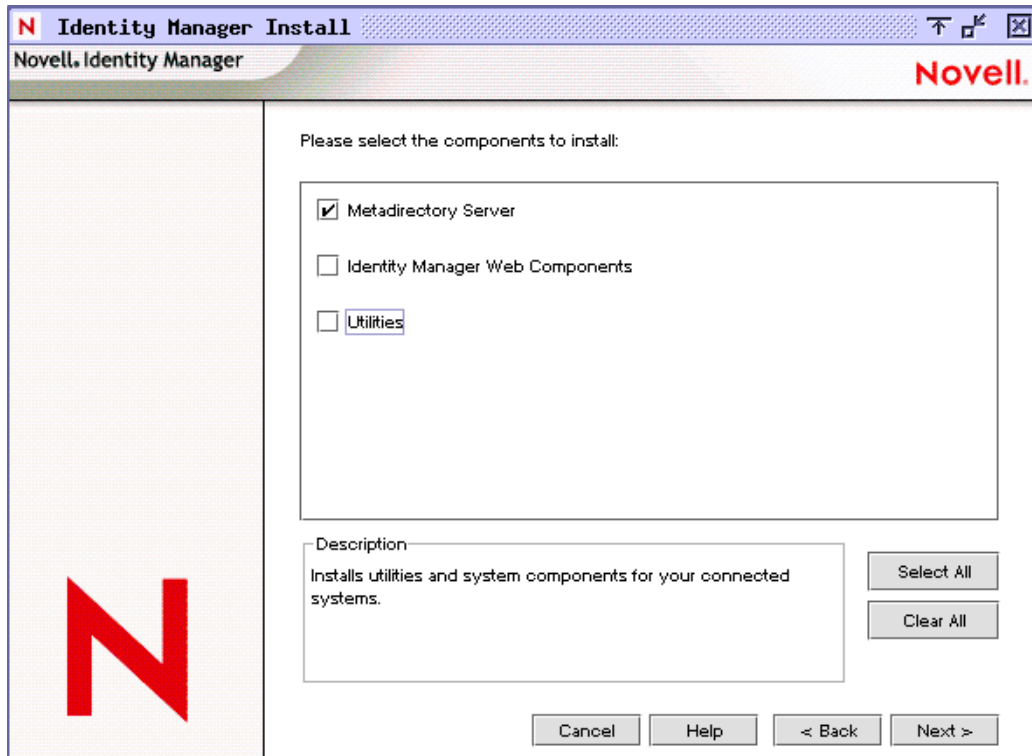
- 2 (条件付き) グラフィカルユーティリティがロードされていない場合は、「startx」と入力してユーティリティをロードします。
- 3 グラフィカルユーティリティで、[Novell] アイコンをクリックして、[インストール] をクリックします。
- 4 [インストール済みの製品] ダイアログボックスで、[追加] をクリックします。

- 5 [ソースパス] ダイアログボックスで、product.ni ファイルを参照して選択します。



- 5a 以前にマウントした CD ボリューム (IDM_3_0_NW_WIN) を参照して展開します。
- 5b nw ディレクトリを展開し、product.ni を選択して、[OK] を 2 回クリックします。
- 6 [Novell Identity Manager 3.0 のインストールへようこそ] ダイアログボックスで、[次へ] をクリックして、使用許諾契約に同意します。
- 7 2 つの [概要] ダイアログボックスを表示して、[次へ] をクリックします。

- 8 [Identity Manager のインストール] ダイアログボックスで、[メタディレクトリサーバ] だけを選択します。

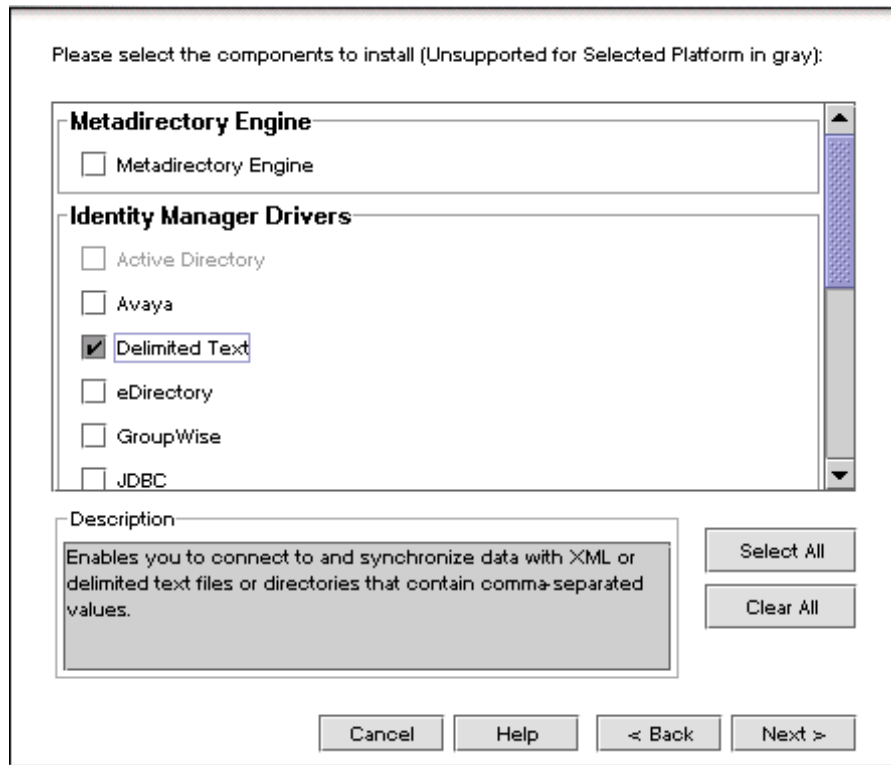


次の項目を選択解除します。

- ◆ Identity Manager Web コンポーネント
- ◆ ユーティリティ

- 9 [次へ] をクリックします。

- 10 エンジンインストールのドライバを選択するダイアログボックスで、[区切りテキスト] だけを選択します。



次の項目を選択解除します。

- ◆ メタディレクトリエンジン
- ◆ 区切りテキスト以外のすべてのドライバ

- 11 [次へ] をクリックします。

- 12 [Identity Manager アップグレードの警告] ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

このダイアログボックスで、90 日以内にドライバのライセンスを有効にすることを促されます。

- 13 [概要] ページで、選択したオプションを確認して、[終了] をクリックします。

- 14 [閉じる] をクリックします。

インストール後、19 ページの「**ドライバのセットアップ**」にある説明に従ってドライバを設定します。

2.4.3 Linux または Solaris へのインストール

デフォルトでは、区切りテキスト用の Identity Manager ドライバは、メタディレクトリエンジンをインストールするときにインストールされます。この節には、メタディレクトリエンジンのインストール時にドライバがインストールされなかった場合のドライバのインストール方法が記載されています。

インストールプログラムを進めていくときに、「previous」と入力すれば前のセクション(画面)に戻ることができます。

- 1 端末セッションで、root としてログインします。
- 2 Identity Manager CD をドライブに挿入してマウントします。

CD をお持ちでない場合は、Identity_Manager_3_Linux.iso をダウンロードして CD を作成します。ダウンロードイメージは、[ノベル用ダウンロード \(http://download.novell.com/index.jsp\)](http://download.novell.com/index.jsp) から入手できます。

通常、CD は自動的にマウントされます。次の表は、CD を手動でマウントする例を示しています。

プラットフォーム	入力するコマンド
AIX*	mount /mnt/cdrom、次に <Enter> キーを押す
Red Hat*	mount /mnt/cdrom、次に <Enter> キーを押す
Solaris*	mount /cdrom、次に <Enter> キーを押す
SUSE®	mount /media /cdrom、次に <Enter> キーを押す

- 3 setup ディレクトリに移動します。

プラットフォーム	パス
AIX	/mnt/cdrom/setup/
Red Hat	/mnt/cdrom//setup/
Solaris	/cdrom//idm_3/setup/
SUSE	/media/cdrom//setup/

- 4 「./dirxml_linux.bin」と入力してインストールプログラムを実行します。
- 5 [イントロダクション] セクションで、<Enter> キーを押します。
- 6 使用許諾契約に同意します。

[DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT (この使用許諾契約書の条項に同意しますか?)]が表示されるまで <Enter> キーを押し、「y」と入力して、<Enter> キーを押します。

```
Session Edit View Bookmarks Settings Help
Upon request, Novell will provide You specific information regarding
applicable restrictions. However, Novell assumes no responsibility for Your
failure to obtain any necessary export approvals.
U.S. Government Restricted Rights. Use, duplication, or disclosure by the U.S.
Government is subject to the restrictions in FAR 52.227-14 (June 1987)
Alternate III (June 1987), FAR 52.227-19 (June 1987), or DFARS 252.227-7013
(b)(3) (Nov 1995), or applicable successor clauses. Contractor/Manufacturer is
Novell, Inc. 1800 South Novell Place, Provo, Utah 84606.
Other. The application of the United Nations Convention of Contracts for the
International Sale of Goods is expressly excluded.

(c)2005 Novell, Inc. All Rights Reserved.
(022205)
Novell is a registered trademark and eDirectory is a trademark of Novell, Inc.

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

in the United States and other countries. SUSE LINUX is registered trademark
of SUSE LINUX AG, a Novell business.

DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT? (Y/N): █
```

7 [インストールセットの選択] セクションで、[カスタマイズ] オプションを選択します。

「4」と入力して、<Enter> キーを押します。

```
=====
Choose Install Set
-----

Please choose the Install Set to be installed by this installer.

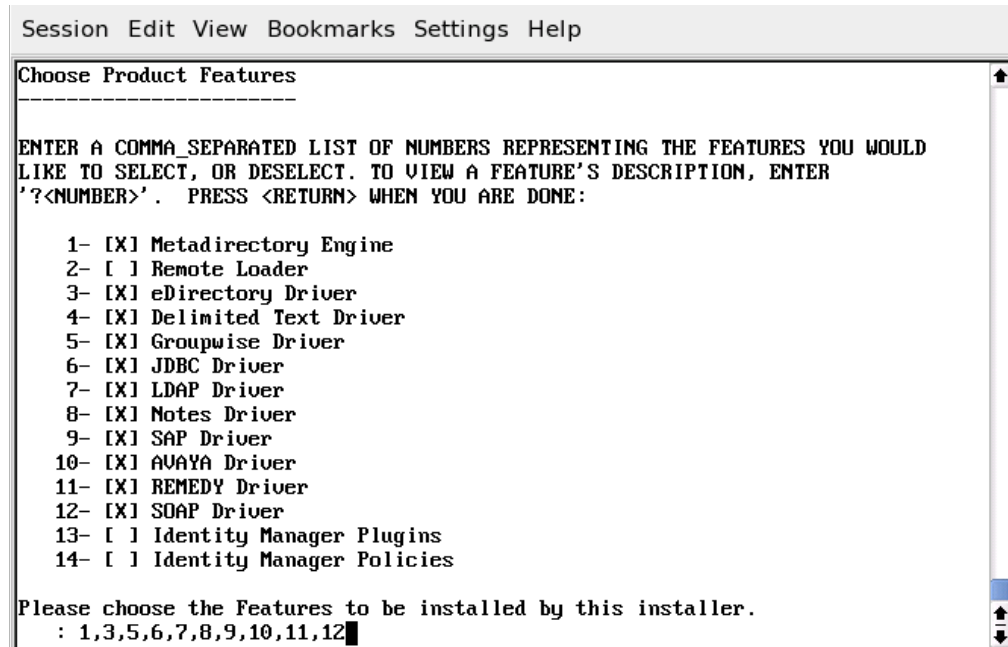
->1- Metadirectory Server
   2- Connected System Server
   3- Web-based Administrative Server

   4- Customize...

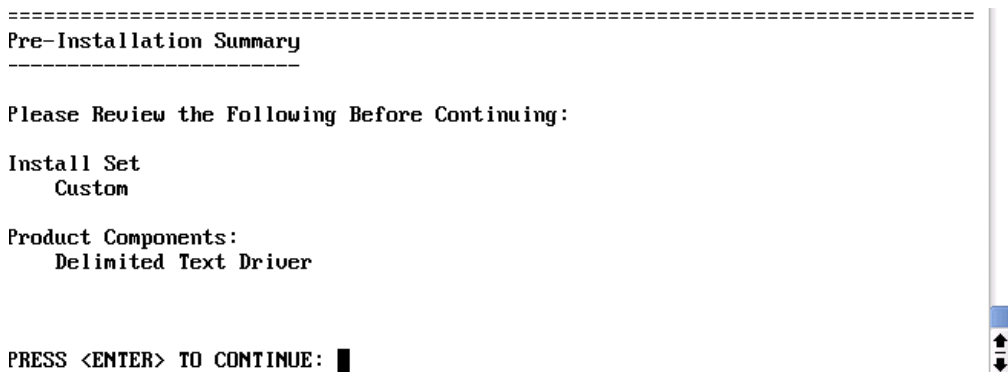
ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
: 4█
```

8 [Choose Product Features (製品の機能の選択)] セクションで、[区切りテキスト] を除くすべての機能を選択解除して、<Enter> キーを押します。

機能を選択解除するには、その番号を入力します。複数の機能を選択解除するには、各機能の間にカンマを入力します。



- 9 [インストール前の概要] セクションで、オプションを確認します。



前のセクションに戻るには、「previous」と入力して、<Enter> キーを押します。

続行するには、<Enter> キーを押します。

- 10 インストールが完了したら、<Enter> キーを押してインストールを終了します。

インストール後、19 ページの「[ドライバのセットアップ](#)」にある説明に従ってドライバを設定します。

2.5 ドライバのセットアップ

既存のドライバをアップグレードしている場合、セットアップは不要です。

区切りテキストドライバを初めて使用する場合は、これ以降の節に記載されているインストール後のタスクを実行します。

- ◆ 20 ページの「ドライバの設定」
- ◆ 22 ページの「データの場所の準備」
- ◆ 22 ページの「ドライバの起動」
- ◆ 23 ページの「データの移行と再同期化」
- ◆ 24 ページの「ドライバを有効にする」

2.5.1 ドライバの設定

- ◆ 20 ページの「サンプル環境設定ファイルのインポート : iManager」
- ◆ 22 ページの「サンプル環境設定ファイルのインポート : Designer」

サンプル環境設定ファイルのインポート : iManager

- 1 出力ファイル用のローカルディレクトリを作成します。

たとえば、Windows の場合は、`c:\csvsample\output` を作成します。

このディレクトリには、ローカルファイルシステムの任意のディレクトリを指定できます。このドライバの購読者チャンネルのファイルは、この場所に作成されて格納されます。

- 2 入力ファイルを作成できるローカルディレクトリを作成します。

たとえば、Windows の場合は、`c:\csvsample\input` を作成します。

このディレクトリには、ローカルファイルシステムの任意のディレクトリを指定できます。このドライバの発行者チャンネルのファイルは、この場所に作成されて格納されます。ドライバは、処理対象のファイルがないか、このディレクトリを調べます。

- 3 iManager で、[Identity Manager ユーティリティ] > [新規ドライバ] の順に選択します。

- 4 ドライバセットを選択します。

このドライバを新しいドライバセットに配置する場合は、ドライバセット名、コンテキスト、および関連サーバを指定する必要があります。

- 5 [Import a preconfigured driver from the server (サーバからの設定済みドライバのインポート)] にチェックマークを付け、`DelimitedTextCSVSample.xml` ファイルを選択します。

ドライバ設定ファイルは、iManager のセットアップ時に Web サーバにインストールされます。

- 6 [次へ] をクリックします。

次の情報を要求するメッセージが表示されます。

フィールド	説明
ドライバ名	このドライバに割り当てられる eDirectory™ オブジェクト名。

フィールド	説明
出力ファイルへのパス	出力ファイルの作成先となるローカルディレクトリへのプラットフォーム固有のパスを指定します。このパスは、手順 1 で作成したディレクトリです。
出力ファイルの拡張子	ファイルを作成するときに出力ファイルに追加する拡張子を指定します。
入力ファイルへのパス	入力ファイルが存在するローカルディレクトリへのプラットフォーム固有のパスを指定します。このパスは、手順 2 で作成したディレクトリです。
入力ファイルの拡張子	入力ファイルを指定する場合に使用する拡張子を指定します。
ファイル拡張子 (名前変更後)	ファイルが処理された後に、入力ファイルの拡張子をどのように名前変更するかを指定します。ファイルを削除する場合は、このフィールドを空白のままにします。
新規ユーザコンテナ	新規ユーザが配置されるコンテナの DN を指定します。
データフローの設定	データフローを次のいずれかのオプションに設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 双方向: 区切りテキストとアイデンティティボールドの両方が、データ同期における信頼されるソースになります。 ◆ 区切りテキストからアイデンティティボールドへ: 区切りテキストが、信頼されるソースになります。 ◆ アイデンティティボールドから区切りテキストへ: アイデンティティボールドが、信頼されるソースになります。
パスワードの障害を通知するユーザ	必要に応じて、ユーザのパスワードの障害通知を受信する追加ユーザ (管理者など) を指定します。
ドライバの選択 (ローカル / リモート)	[リモート] オプションを選択してリモートローダサービス用にドライバを設定するか、または [ローカル] を選択して、ローカル用にドライバを設定します。[ローカル] を選択する場合は、残りのパラメータを省略できます。
リモートホスト名とポート	リモートローダサービスがインストールされてこのドライバ用に実行しているホストの名前または IP アドレスとポート番号を指定します。デフォルトのポートは 8090 です。
ドライバパスワード	ドライバオブジェクトパスワードは、リモートローダがメタディレクトリサーバに対して自身の認証を求めるときに使用されます。このパスワードには、Identity Manager リモートローダ上のドライバオブジェクトパスワードと同じパスワードを指定する必要があります。
リモートパスワード	リモートローダインスタンスへのアクセスを制御するために、リモートローダのパスワードが使用されます。このパスワードには、Identity Manager リモートローダ上のリモートローダパスワードと同じパスワードを指定する必要があります。

7 [終了] をクリックします。

注: ドライバの他のパラメータを設定および変更できます。詳細については、27 ページの「[ドライバパラメータの設定](#)」を参照してください。

サンプル環境設定ファイルのインポート : Designer

JDBC の基本的なドライバ環境設定ファイルをインポートするには、**Designer for Identity Manager** を使用します。この基本的なファイルを使用して、ドライバを正しく機能させるために必要なオブジェクトやポリシーを作成および設定します。

次の手順は、サンプル環境設定ファイルをインポートする方法の 1 つを示しています。

- 1 デザイナでプロジェクトを開きます。
- 2 モデラーで、[ドライバセット] オブジェクトを右クリックして、[Add Connected Application (接続アプリケーションの追加)] を選択します。
- 3 ドロップダウンリストから、[DelimitedTextCSVSample.xml] を選択して、[実行] をクリックします。
- 4 [Perform Prompt Validation (プロンプト検証の実行)] ウィンドウで、[はい] をクリックします。
- 5 フィールドに入力してドライバを設定します。
各自の環境に特有の情報を指定します。設定については、**20 ページのステップ 6** の表の内容を参照してください。
- 6 パラメータを指定したら、[OK] をクリックしてドライバをインポートします。
- 7 ドライバをカスタマイズおよびテストします。
- 8 アイデンティティポールのドライバを展開します。

『*Designer for Identity Manager 3: Administration Guide*』の「**Deploying a Project to an Identity Vault**」を参照してください。

2.5.2 データの場所の準備

サンプル環境設定で用意されているすべてのデフォルトを使用する場合は、Identity Manager データの場所を準備します。

- 1 アイデンティティポールのルートレベルでコンテナ Users\Active を追加します。
- 2 Windows の場合は、ローカルファイルシステムで入力ディレクトリおよび出力ディレクトリを指定するか、または作成します。

たとえば、**20 ページのステップ 1** および **20 ページのステップ 2** で作成した 2 つのディレクトリを指定します。ローカルファイルシステムの任意の 2 つのディレクトリを使用できます。

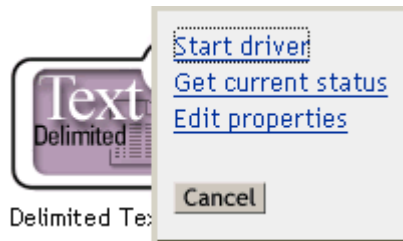
Solaris、Linux*、または NetWare の場合は、どこでも好きな場所に入力ディレクトリおよび出力ディレクトリを作成します。次に、正しいプラットフォーム固有のパスでドライバ環境設定を更新します。詳細については、**33 ページの「入力ファイルへのパス」**を参照してください。

2.5.3 ドライバの起動

環境設定中にデフォルトのデータ場所を変更した場合は、新しい場所が存在することを確認してからドライバを起動します。

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。

2 ドライバセット内でドライバを検索します。



3 ドライバアイコンの右上隅にあるドライバステータスインディケータをクリックして、[ドライバの起動] をクリックします。

個々のオブジェクトに変更が加えられると、オブジェクト単位に同期がとられます。即時に同期させる場合は、23 ページの「データの移行と再同期化」で説明されているとおりにそのプロセスを開始します。

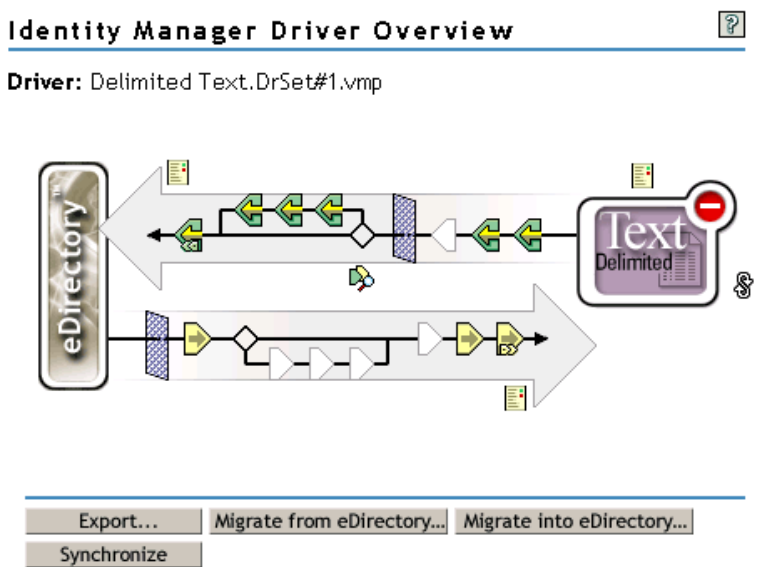
2.5.4 データの移行と再同期化

Identity Manager では、データが変化するとデータが同期されます。すべてのデータを即時に同期する場合は、次のいずれかの操作を行うことができます。

- ◆ アイデンティティポールドにまたはアイデンティティポールドから新規データを移行する。
- ◆ ドライバセットの [プロパティ] ページを使用して既存のデータを再同期する。

[eDirectory からの移行] と [同期] のオプションは、通常どのドライバとも無関係に動作します。ただし、これらのオプションおよび区切りテキスト用の Identity Manager ドライバには、いくつかの問題があります。

次の図は、[eDirectory からの移行] と [同期] のオプションを選択するボタンを示しています。



eDirectory からのデータの移行

ドライバの Identity Manager 関連付けがない eDirectory エントリを検索するには、[eDirectory からの移行] をクリックします。ルール処理で拒否されない関連付けのないエントリは、出力ファイルに書き込まれ、関連付けを受け取ります。

注：すでに最新の関連付けを備えているエントリは、出力ファイルに書き込まれません。関連付けられているエントリすべてを出力するには、[同期] をクリックします。

eDirectory へのデータの移行

ほとんどの Identity Manager ドライバの場合、eDirectory に移行すると、メタディレクトリエンジンが、そのドライバを介してアプリケーションを照会します。クエリでは、アプリケーションから eDirectory に同期できるエントリを検索します。このような同期化エントリは、eDirectory で作成されます。ドライバは、関連付けの値を新しい各エントリに割り当てます。

[eDirectory への移行] オプションには、区切りテキスト用の Identity Manager ドライバとともに使用する場合があります。ファイルが入力ディレクトリに格納されると、このドライバはそのすべての入力を取得します。ドライバが、処理するファイルに関して常に最新の状態になっているため、さらに処理または照会を行う必要はありません。[eDirectory への移行] をクリックしても、このドライバでクエリが無効にされているため、何も行われません。

データの同期化

eDirectory のエントリに、選択したドライバとの関連付けがある場合は、[同期] オプションにより、そうしたエントリはアプリケーション内の関連付けられたエントリと再び同期されます。ドライバが購読者チャンネルを備えている場合、eDirectory は、購読者フィルタの属性の信頼されるソースと見なされます。

区切りテキスト用の Identity Manager ドライバでは、アプリケーションに直接照会して、同期されていないデータを特定することはできません。したがって、メタディレクトリエンジンは、関連付けられたエントリごとに変更イベントをドライバに送信します。このイベントにより、[同期] をクリックすると必ずこうした各エントリが出力ファイルに書き込まれます。購読者が設定されていない場合、[同期] はドライバには作用しません。

[eDirectory からの移行]、[eDirectory への移行]、または [同期] を使用する

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
- 2 区切りテキストドライバが含まれているドライバセットを検索して、ドライバアイコンをダブルクリックします。
- 3 適切なマイグレーションボタンをクリックします。

2.5.5 ドライバを有効にする

インストール後 90 日以内にドライバを有効化 (アクティベーション) します。そうしなければ、ドライバは機能を停止します。

起動方法については、『*Identity Manager 3.0 インストールガイド*』の「[Novell Identity Manager 製品を有効にする](#)」を参照してください。

区切りテキスト用のドライバのアップグレード

エンジンをインストールすると同時に区切りテキスト用の Identity Manager ドライバをアップグレードするか、またはエンジンをインストールした後にアップグレードすることができます。

エンジンをインストールした後に区切りテキスト用のドライバをアップグレードする

- 1 ダウンロードイメージから Identity Manager 3 インストールプログラムを実行します。

Windows* NT* の場合は、12 ページの「Windows へのインストール」を参照してください。

NetWare® の場合は、13 ページの「NetWare へのインストール」を参照してください。

Linux または Solaris の場合は、16 ページの「Linux または Solaris へのインストール」を参照してください。

- 2 [区切りテキスト用の Identity Manager ドライバ] を選択します。

前のドライバが新しいドライバに置き換えられます。前のドライバの環境設定が保持されるため、インストール後の環境設定は必要ありません。

- 3 ドライバを再起動します。

重要 : Identity Manager 3.0 リリースの更新済みドライバのサンプル環境設定ファイルが変更されました。現在の環境設定が要件を満たしている場合は、このサンプル環境設定をインポートする必要はありません。新しいサンプル環境設定をインポートすると、区切りテキストの追加ドライバは、新しい名前、配置ルールで指定した新しいアイデンティティボールドコンテナ、および新しいルール名を伴って表示されます。

区切りテキスト用のドライバのカスタマイズ

区切りテキスト用の Identity Manager ドライバには、展開の出発点として使用できるサンプル環境設定が用意されています。

ほとんどの展開では、サンプル環境設定を変更する必要があります。たとえば、一方向のデータ同期だけが必要な場合や、同期する属性がサンプルで提供されている 8 つの属性と異なる場合は、ドライバをカスタマイズする必要があります。

ここでは、次のカスタマイズについて説明します。

- ◆ [27 ページの「ドライバパラメータの設定」](#)
- ◆ [36 ページの「データ同期の設定」](#)
- ◆ [37 ページの「Java インタフェースを使用したファイル処理のカスタマイズ」](#)

注：データ同期をカスタマイズする場合は、同期対象のオペレーティングシステムおよびアカウントの、サポートされている標準や規則の範囲で作業する必要があります。1 つの環境では有効でも、別の環境では無効な文字が含まれているデータは、エラーになります。

4.1 ドライバパラメータの設定

ドライバパラメータを変更する場合は、ネットワーク環境と協調するようにドライバの動作を調整します。たとえば、同期に必要な間隔より短いデフォルトの発行者ポーリング間隔を見つけることができます。この間隔を長くすると、適切な同期を維持しながら、ネットワークパフォーマンスを向上させることができます。

ドライバパラメータは、次の設定に分けられます。



- ◆ ドライバ ([29 ページの「ドライバ設定」](#) を参照。)
- ◆ 購読者 ([31 ページの「購読者設定」](#) を参照。)
- ◆ 発行者 ([32 ページの「発行者設定」](#) を参照。)

ドライバパラメータを設定する

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
- 2 [検索] または [参照] 機能を使用して、区切りテキスト用の Identity Manager ドライバセットを検索します。

次の図は、[検索] 機能の使用方法を示しています。

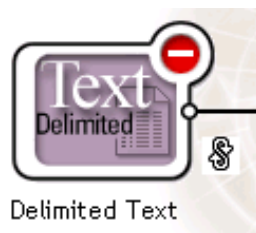
ドライバセットをどこで検索しますか?

- ツリー全体を検索する
- 次のコンテナ内を検索する:  


検索

キャンセル

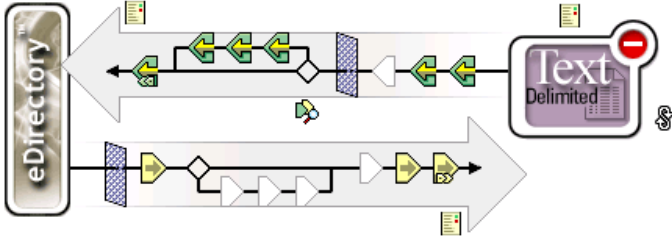
- 3 ドライバの概要を表示するには、ドライバアイコン ([区切りテキスト]) をクリックします。



- 4 [ドライバ環境設定] ページにアクセスするには、もう一度ドライバアイコンをクリックします。

Identity Manager Driver Overview 

Driver: Delimited Text.DrSet#1.vmp

The diagram illustrates the data flow between an eDirectory directory and a Delimited Text driver. On the left is a vertical rectangular box labeled 'eDirectory'. On the right is a square icon labeled 'Text Delimited' with a red minus sign in the top right corner and a dollar sign (\$) below it. Two large horizontal arrows connect them. The top arrow points from the Delimited Text driver to eDirectory and contains several small icons representing data processing steps. The bottom arrow points from eDirectory to the Delimited Text driver and also contains several small icons representing data processing steps.

Export... Migrate from eDirectory... Migrate into eDirectory...
Synchronize

- 5 [ドライバパラメータ] セクションまでスクロールし、変更を加えて、[OK] をクリックします。



[ドライバ設定] セクションに変更を加えるには、29 ページの「[ドライバ設定](#)」を参照してください。

[購読者設定] セクションに変更を加えるには、31 ページの「[購読者設定](#)」を参照してください。

[発行者設定] セクションに変更を加えるには、32 ページの「[発行者設定](#)」を参照してください。

4.1.1 ドライバ設定

次の図は、サンプル環境設定のドライバ設定とそのデフォルト値を示しています。

ドライバパラメータ

us-linux-srv.novell

XMLの編集

ドライバ設定

Field Delimiter:	.
Field Names (Field1, Field2, Field3...):	LastName,FirstName,Title,Email,WorkPhone,F
Object Class Name:	User
Allow Driver to Consume Its Own Output?	no

フィールド区切り記号

[フィールド区切り記号] は、入力ファイルのフィールド値を区切るために使用される文字を示します。この区切り記号には、1 文字を指定する必要があります。

いずれかの入力フィールドの値にこの文字が使用されている場合は、その文字が区切り記号として参照されないように値全体を引用符で囲みます。

注：この区切り記号パラメータをカンマ以外の文字に変更しても、購読者が使用されている場合は、出力ファイルで使用される区切り記号文字は自動的に変更されません。出力ファイルの区切り記号文字を変更するには、出力変換スタイルシートを編集します。区切り記号文字は、そのスタイルシートの一番上付近の変数に割り当てられています。

フィールド名

[フィールド名] は、スキーママッピングルールで参照されている属性名のカンマ区切りのリストです。入力ファイルでは、レコードのフィールドが、このリスト内の名前との順序と位置に対応している必要があります。

たとえば、このパラメータで 8 つのフィールド名を指定する場合、入力ファイルの各レコードでは、8 つのフィールドがフィールド区切り記号文字で区切られている必要があります。NetWare® および Windows の場合の例については、`delimitedtext/samples` ディレクトリの `sample.csv` を参照してください。Solaris および Linux の場合、`sample.csv` は `/usr/lib/dirxml/rules/delim` ディレクトリにあります。

次の表は、デフォルト値を示しています。

パラメータ	サンプルの環境設定値
フィールド名 (フィールド 1, フィールド 2, フィールド 3...)	LastName, FirstName, Title, Email, WorkPhone, Fax, WirelessPhone, Description

オブジェクトクラス名

[オブジェクトクラス名] は、入力ファイルに対応する新規オブジェクトを作成するとき使用する必要がある Novell® eDirectory™ クラス名です。

ドライバがドライバ自身の出力を使用できるようにしますか？

このパラメータにより、ドライバが書き込んだ出力ファイルを誤って同じドライバの入力としてすぐにもう一度読み込むことのないようにします。

デフォルトは [いいえ] です。デフォルトでは、次の条件がすべて当てはまる場合、ドライバはロードしません。

- ◆ 購読者チャンネルと発行者チャンネルを備えている。
- ◆ 入力ディレクトリと出力ディレクトリが同じである。
- ◆ 入力ファイルと出力ファイルの拡張子が同じである。

アイデンティティポールの他の変更のきっかけとなるアイデンティティポールのイベントを検出する方法として購読者チャンネルの入力に購読者チャンネルの出力を指定する場合は、このパラメータを [はい] に設定します。たとえば、名前、名字、またはイニシャルの属性を更新するときにフルネーム属性を更新するには、このパラメータを [はい] に設定します。

4.1.2 購読者設定

次の図は、サンプル環境設定の購読者設定とそのデフォルト値を示しています。

Subscriber Settings	
Output File Path:	c:\csvsample\output
Output File Extension:	.csv
Destination File Character Encoding (leave blank for default):	
Maximum Number of Transactions per Output File:	200
Maximum Time in Seconds before Flushing All Transactions:	30
Time of Day (Local Time) to Flush All Transactions:	

出力ファイルへのパス

[出力ファイルへのパス] は、出力ファイルの作成先となるローカルファイルシステムのディレクトリです。このディレクトリが存在しない場合は、エラーが発生します。

プラットフォーム	サンプルの環境設定値
Windows	c:\csvsample\output
Solaris または Linux	/csvsample/output
NetWare	ボリューム (sys:csvsample\output など) を指定する

出力ファイルの拡張子

出力ファイルには、[出力ファイルの拡張子] パラメータの文字列で終わる固有の名前が付きます。購読者チャンネルからの出力ファイルを別の区切りテキスト用 Identity Manager ドライバの発行者チャンネルの入力ファイルとして使用する場合は、宛先ファイルの拡張子がもう 1 つのドライバのソースファイルの拡張子パラメータと一致している必要があります。

宛先ファイルの文字エンコード

[宛先ファイルの文字エンコード] パラメータに値が設定されていない場合は、指定したロケールのデフォルトの Java 文字エンコードが使用されます。

指定したロケールのデフォルト以外のエンコードを使用するには、「[Supported Encodings \(http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/guide/intl/encoding.doc.html\)](http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/guide/intl/encoding.doc.html)」の表のいずれかの標準名を入力します。

注：発行者チャンネルと購読者チャンネルでは、さまざまな文字エンコードを使用できます。

出力ファイルごとの最大トランザクション数

このパラメータでは、1 つの出力ファイルに書き込まれるトランザクションの最大数を指定します。ファイルトランザクションの上限に達すると、その出力ファイルは閉じられ、以降のトランザクション用に新しいファイルが作成されます。1 つのファイルに書き込め

るトランザクション数を制限するには、このパラメータを空白のままにするか、ゼロに設定します。

詳細については、[32 ページの「すべてのトランザクションを削除するまでの最大秒数」](#)を参照してください。

すべてのトランザクションを削除するまでの最大秒数

このパラメータで指定した時間内に新しいトランザクションが出力ファイルに書き込まれなかった場合、その出力ファイルは閉じられます。新しいトランザクションを書き込む必要がある場合は、新しい出力ファイルが作成されます。出力ファイルを閉じるまでの時間を制限しない場合は、このパラメータを空白のままにするか、ゼロに設定します。

すべてのトランザクションを削除する時刻 (ローカルタイム)

このパラメータの値が指定されている場合、現在の出力ファイルは、毎日指定された時刻に閉じられます。それ以降のトランザクションは、新しいファイルに書き込まれます。このパラメータの指定にかかわらず、[出力ファイルごとの最大トランザクション数] や [すべてのトランザクションを削除するまでの最大秒数] パラメータは出力ファイルのしきい値としても機能します。このパラメータを使用して 1 日 1 ファイルにする場合は、他の 2 つのパラメータをゼロに設定します。

このパラメータは、HH:MM:SS (24 時間表示) または H:MM:SS AM/PM の形式で指定できます。時間は必須ですが、分と秒は省略可能です。このパラメータはローカル時刻を想定しているため、値に含まれている時間帯情報は無視されます。

注: 前の 3 つのパラメータ ([出力ファイルごとの最大トランザクション数]、[すべてのトランザクションを削除するまでの最大秒数]、および [すべてのトランザクションを削除する時刻]) はすべて、ファイルの増大を制限するトランザクションサイズのしきい値、または新しいトランザクションを受け入れるために出力ファイルを開いたままにする時間のしきい値として機能できます。

出力ファイルは、区切りテキストドライバによる書き込みに備えて開かれている限り、完了とは見なされません。ドライバがファイルを閉じるまで、他のプロセスでファイルを開くことはできません。このために、前の 3 つのパラメータのいずれかを設定して、その出力ファイルが無期限に開かれたままにならないようにする必要があります。このような状況を防ぐために、ドライバで 3 つのパラメータすべてが空白 (またはゼロ) であることが検出されると、[出力ファイルごとの最大トランザクション数] の値が自動的に 1 に設定されます。

4.1.3 発行者設定

次の表は、サンプル環境設定の発行者チャネルパラメータとそのデフォルト値を示しています。

表 4-1 発行者パラメータのデフォルト値

パラメータ	サンプルの環境設定値
入力ファイルへのパス	Windows の場合 : c:\csvsample\input Solaris および Linux の場合 : /usr/lib/dirxml/rules/delim NetWare の場合は、ボリューム (sys:csvsample\input など) を指定する必要がある
入力ファイルの拡張子	.csv
ソースファイルの文字エンコード (デフォルトは空白のままにする)	[空白]
ファイル名拡張子 (名前変更後) (ファイルを削除する場合は空白のままにする)	.bak
ポーリング間隔 (秒)	10

入力ファイルへのパス

発行者チャンネルでは、入力ファイルパスで新しい入力ファイルが検索されます。このパスは、ローカルファイルシステムのディレクトリです。

入力ファイルの拡張子

発行者チャンネルでは、このパラメータで指定された拡張子のファイルだけを使用します。ファイルが処理されたら、[ファイル名拡張子 (名前変更後)] パラメータの値がファイル名に追加されるので、発行者チャンネルで同じファイルが再び処理されることはありません。[ファイル名拡張子 (名前変更後)] パラメータの値を空白のままにすると、ソースファイルは処理された後に削除されます。

ソースファイルの文字エンコード

[ソースファイルの文字エンコード] パラメータに値が設定されていない場合は、各自のロケールのデフォルトの Java 文字エンコードが使用されます。

指定したロケールのデフォルト以外のエンコードを使用するには、「[Supported Encodings \(http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/guide/intl/encoding.doc.html\)](http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/guide/intl/encoding.doc.html)」の表のいずれかの標準名を入力します。

[入力ファイルの拡張子] パラメータが .xml の場合は、次のどちらかの方法でソースファイルの文字エンコードを示すことができます。

- ◆ [ソースファイルの文字エンコード] パラメータに値が示されている場合は、その値が使用されます。
- ◆ パラメータが空白の場合、および [W3C XML 勧告 \(http://www.w3.org/TR/REC-xml#charencoding\)](http://www.w3.org/TR/REC-xml#charencoding) の 4.3.3 に記載されているように XML ドキュメントでエンコード宣言が指定されている場合、エンコード宣言はメタディレクトリエンジンの XML パーサで処理されます。

Identity Manager XML パーサでは、次の文字エンコードが処理されます。

- ◆ UTF-8

- ◆ UTF-16
- ◆ ISO-8859-1
- ◆ US-ASCII

注：発行者チャンネルと購読者チャンネルでは、さまざまな文字エンコードを使用できます。

ファイル名拡張子 (名前変更後)

[ファイル名拡張子 (名前変更後)] については、[33 ページの「入力ファイルの拡張子」](#)を参照してください。

重要：デフォルトを変更する場合は、プラットフォーム上のファイル名に有効な文字だけを使用します。無効な文字を使用すると、リネームに失敗したり、ドライバが繰り返し同じファイルを再処理する原因になります。

ポーリング間隔

発行者チャンネルですべてのソースファイルの処理が完了したら、このパラメータで指定した秒数待った後に、処理する新しいソースファイルをチェックします。

4.1.4 一方向の同期の設定

データ同期が一方向しか行われない場合は、使用しないチャンネルを無効にします。いずれかのチャンネルを無効にするには、チャンネルに応じて、不要なチャンネルや入力または出力ディレクトリのパスを指定していないチャンネルのフィルタをクリアします。

たとえば、発行者チャンネルだけが必要な場合は、次の手順を実行してください。

1 iManager のフィルタエディタで、購読者オブジェクトのフィルタをクリアします。

1a たとえば、[名前] フィルタを選択します。



1b [Subscribe (購読)] セクションの [無視] を選択します。

Class Name: User
Attribute Name: Given Name

Application Name:
FirstName

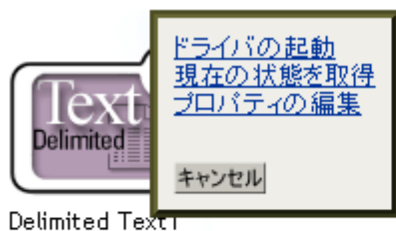
Publish:
 Synchronize
 Ignore
 Notify
 Reset

Subscribe:
 Synchronize
 Ignore
 Notify
 Reset

次の図に示すように、フィルタの購読機能は無効にされます。



- 2 変更を保存するには、[OK] をクリックします。
- 3 [ドライバパラメータ] セクションで、[購読者設定] までスクロールして、[出力ファイルへのパス] の指定したパスを削除します。



購読者チャンネルだけが必要な場合は、発行者オブジェクトのフィルタをクリアし、[ドライバパラメータ] セクションの [入力ファイルへのパス] に指定したパスを削除します。

4.1.5 XDS XML ファイルの設定

ドライバで CSV (Comma Separated Values) ファイルではなく XDS 形式の XML ファイルを使用できます。

通常は、発行者チャンネルまたは購読者チャンネルでしかこのドライバを使用しないため、必要なセクションの手順だけを実行します。

発行者チャンネルの使用

ドライバに XML 形式で入力を受け入れさせるには、入力ファイルの拡張子を .xml に変更します。

購読者チャンネルの使用

ドライバに XDS 形式で出力を送信させるには、購読者チャンネルからイベント変換スタイルシートと出力変換スタイルシートを削除します。

- 1 iManager で、[eDirectory 管理] > [オブジェクトの削除] の順に選択します。
- 2 ドライバの購読者オブジェクトを参照して、SubscriberEventTransformSS オブジェクトを選択します。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 [タスクの繰り返し] をクリックします。
- 5 ドライバの OutputTransformSS オブジェクトを参照して選択します。
- 6 [OK] を 2 回クリックします。

4.2 データ同期の設定

Identity Manager では、共有データの管理においてその真価が発揮されます。ここでは、区切りテキスト用の Identity Manager ドライバの一般的なカスタマイズについて説明します。

ドライバで使用可能なサンプル環境設定には、CSV (Comma-Separated Values) ファイルが使用されています。ただし、さまざまな方法でドライバを使用できます。ドライバは、できる限り柔軟に設計されています。ドライバにより、ほとんど変更されないテキストベースのファイルがスタイルシートに渡されます。処理の大半は、スタイルシートで行われます。新しいスタイルシートを作成すると、ドライバが、予測どおりに反復可能なパターンを含むテキストベースのファイルと実質的に連動できます。

この交換の基本は <delimited-text> XML 要素です。たとえば、テキストファイルから情報を読み込む発行者チャンネルを設計するには、ファイルの内容を受け取ってそれを <delimited-text> 要素に変換する入力変換スタイルシートを作成します。

次に、<delimited-text> 要素の例を示します。

```
<delimited-text> <record> <field>John</field> <field>Maxfield</field>
<field>555-1212</field> </record> <record> <field>Sarah</field>
<field>Lopez</field> <field>555-3434</field> </record> </delimited-
```


text>

field 要素が名前属性の指定なしで次のようになっている場合、ドライバは、フィールド位置を使用して、[フィールド名]ドライバパラメータの該当位置でその属性の一致を検出します。

次のように XML 内でフィールド名を指定できます。

```
<delimited-text> <record> <field name="FirstName">John</field> <field name="LastName">Maxfield</field> <field name="Phone">555-1212</field> </record> <record> <field name="FirstName">Sarah</field> <field name="LastName">Lopez</field> <field name="Phone">555-3434</field> </record> </delimited-text>
```

他のドキュメントタイプを処理するスタイルシートの作成方法の詳細については、このドライバに付属するサンプルスタイルシートを参照してください。サンプル環境設定を使用してドライバを作成する場合は、出発点として入力変換、出力変換、イベント変換の各スタイルシートを使用できます。

4.3 Java インタフェースを使用したファイル処理のカスタマイズ

Java インタフェースにより、作成する Java クラスを使用してファイル処理をカスタマイズできます。このインタフェースには、InputSorter、InputSource、PreProcessor、および PostProcessor があります。

ドライバに対するこうした機能拡張には、Java プログラミングが必要です。この機能を実装するには、次のプロセスを実行してください。

- ◆ 新しいインタフェースのいずれかを実装する Java クラスを作成する。
- ◆ 新しいクラスを格納する Java .jar ファイルを作成する。
- ◆ 新しいクラスを使用するためにドライバを設定する。

4.3.1 新しい Java クラスの作成

この新しい機能を実装できるように、JavaDoc およびサンプルクラスがドライバに付属しています。こうしたファイルは、プラットフォーム \dirxml\drivers\delimitedtext\extensions で探してください。

4.3.2 Java .jar ファイルの作成

クラスファイルを実装したら、jar ツールを使用して Java .jar ファイル (Java アーカイブ) を作成します。jar ファイルには、作成したクラスを格納する必要があります。jar ファイルを novell/nds/lib ディレクトリに格納してください。パスは、使用しているプラットフォームによって異なる場合がありますが、DelimitedTextShim.jar および DelimitedTextUtil.jar と同じ場所にする必要があります。

4.3.3 新しいクラスを使用するためのドライバの設定

新しい .jar ファイルを正しい場所に格納したら、ドライバのプロパティを変更して、新しいクラスを使用するようにドライバを設定します。

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
- 2 ドライバセット内でドライバを検索します。
- 3 ドライバアイコンをクリックして [Identity Manager ドライバの概要] ページを開きます。
- 4 ドライバアイコンをもう一度クリックして [オブジェクトの変更] ページを開きます。
- 5 ドロップダウンメニューで、[ドライバ環境設定] を選択します。
- 6 [ドライバパラメータ] までスクロールし、[XML の編集] をクリックします。
- 7 ファイルの <publisher-options> セクションを検索します。

このファイルでは、[ドライバ環境設定] ページの [ドライバパラメータ] セクションに表示されるパラメータと値を定義します。

発行者チャンネルで機能する作成したクラスごとに、<publisher-options> セクションに追加オプションを入力します。このファイルを更新したら、インタフェースに新しいオプションが表示されます。

- 8 発行者チャンネルで作成した新しいクラスごとに、インタフェースタイプに対応するエントリを追加します。次の表を参考にしてください。

インタフェース	新しいエントリ
InputSorter	<pre><input-sorter display-name="InputSorter Class">com.acme.MyNewClass</input-sorter> <input-sorter-params display-name="InputSorter init string">MY CONFIG PARAMS</input-sorter-params></pre>
InputSource	<pre><input-source display-name="InputSource Class">com.acme.MyNewClass</input-source> <input-source-params display-name="InputSource init string">MY CONFIG PARAMS</input-source-params></pre>
PreProcessor	<pre><pre-processor display-name="PreProcessor Class">com.acme.MyNewClass</pre-processor> <pre-processor-params display-name="PreProcessor init string">MY CONFIG PARAMS</pre-processor-params></pre>

8a *com.acme.MyNewClass* をフルパッケージ識別子とともに定義したクラスの名前に置き換えます。

8b *MY CONFIG PARAMS* を、使用するクラスの `init` メソッドに渡す情報に置き換えます。

使用するクラスの `init` メソッドは、この文字列に含まれている情報を解析する役割を果たします。使用するクラスで `init` メソッドに環境設定文字列を渡す必要がない場合は、すべての要素を無視できます。そのような場合は、`init` メソッドに `NULL` が渡されます。

- 9** PostProcessor ルールを作成した場合は、ファイルの <subscriber-options> セクションを検索して、次の行を追加します。

```
<post-processor display-name="PostProcessor
Class">com.acme.MyNewClass</post-processor> <post-processor-params
display-name="PostProcessor init string">MY CONFIG PARAMS</post-
processor-params>
```

- 9a** *com.acme.MyNewClass* をフルパッケージ情報とともに定義したクラスの名前に置き換えます。

- 9b** *MY CONFIG PARAMS* を、使用するクラスの `init` メソッドに渡す情報に置き換えます。

使用するクラスの `init` メソッドは、この文字列に含まれている情報を解析する役割を果たします。使用するクラスで `init` メソッドに環境設定文字列を渡す必要がない場合は、すべての要素を無視できます。そのような場合は、`init` メソッドに `NULL` が渡されます。

- 10** [OK] をクリックします。

